

## 東京医科歯科大学難治疾患研究所医化学分野

瀬川 勝盛

2021年4月より、東京医科歯科大学難治疾患研究所医化学分野を主宰している瀬川勝盛です。この度は研究室紹介の機会を頂き感謝いたします。私は2004年に大阪府立大学（現大阪公立大学）の工学部を卒業後、大阪大学の生命機能研究科（内分泌・代謝内科学）で学位を取得しました。その後、当時京都大学医学研究科医化学講座におられた長田重一先生のもとで博士研究員から准教授まで細胞死や膜脂質動態についての基礎研究を行い、東京医科歯科大学で自身の研究室を主宰する機会を頂きました。

東京医科歯科大学難治疾患研究所は難治疾患の学理と応用を目的とする研究所であり、難治疾患を標榜する国内唯一の附置研究所です。2023年に創立50周年の節目を迎え、現在では未来生命科学研究部門、病態制御科学部門、バイオデータ科学研究部門の3部門17分野とフロンティア研究室、ジョイントリサーチ部門、および研究支援実験施設で構成されています。東京医科歯科大学は文京区湯島一丁目と東京都心の真ん中に位置しており、キャンパスというよりオフィスビルのような建物です。皇居と東京駅にも近く、私もほぼ毎日夕方に大学から皇居を一周するようにしています（写真1）。道中に、靖国神社、英国大使館、最高裁判所、東京駅などがあり四季折々さまざまな景色を見ることができます。このあたりは江戸時代、学問（儒学）の府であった聖堂（孔子廟）の昌平坂学問所があった場所であり、長い学問の歴史をもつ土地柄でもあります。この場所で、医学部や歯学部の講座とも密接に連携しながら研究・教育を行っています。

我々の分野では主に順遺伝学と生化学の手法を用いて細胞の恒常性維持機構に関与する分子をノンバイアスに同定し、細胞を理解することを目指しています。現在は、“細胞がどのように膜脂質の分布と組成を感知・制御している

のか”についての研究を遂行していますが、テーマに固執せず自由に新しいことをチームメンバーとどんどんやっというと思っています。やはり、研究者自身が本当に“おもしろい”と思うことにチャレンジするのが一番だと思います。これまでの研究テーマや自身の思い込みにとらわれず、研究室のチームメンバーや共同研究先のメンバーと、自分たちがおもしろいと思う研究を楽しみながらチャレンジしたいと思います。研究内容の詳細は研究室HP (<https://www.tmd.ac.jp/mri/mche/index.html>) をご覧ください。

現在、研究室には助教1名、博士研究員1名、技術補佐員2名、大学院生3名、医学部生が5名、秘書1名と私で14人のメンバーで構成されています（写真2）。それぞれ研究経歴やキャリアも異なり、海外からのメンバーや女性のメンバーも多く多様性のあるチームメンバーで構成されています。ノンバイアスのスクリーニングに興味ある学生、博士研究員、スタッフの参加をお待ちしておりますのでいつでもお気軽にご連絡ください。2021年10月に東京に移動してきてからあっという間に時間が過ぎましたが、メンバー、機器、共同研究先との連携も充実し、これから本番といったところです。また東京医科歯科大学は2024年10月より東京工業大学と合併し、東京科学大学 (Institute of Science Tokyo) になります。これからどんな面白いことが起きるのかとても期待しています。Full Devotion to Science, Friendly Atmosphere, and Continuous Excitement は恩師から教えて頂いたポリシーです。これを忘れずに、良い仕事を目指して、チームメンバーと元気に頑張っていこうと思います。今後ともご指導いただけますようお願い申し上げます。

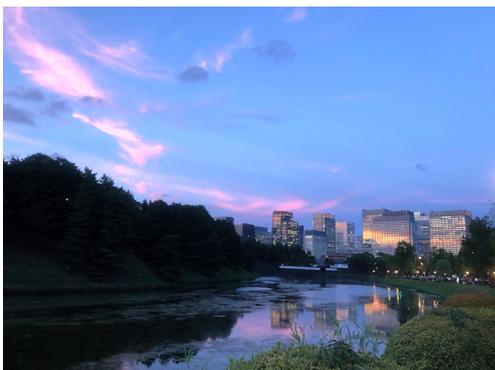


写真1 皇居の夕暮れ



写真2 チームメンバー